

(8)「授業観察シート」を活用した研究協議

生徒数減少に伴い、ここ数年本校では各教科の担当教師が1～2名の状態が続いているということもあって、これまで教科の壁を越えて研究協議に臨む必要があった。そのうえ、生徒指導やクラブ指導・進路指導など業務多忙な中で、時間を省いてより有効な研究協議にしていくなために、以下のような工夫をした。

○協議の視点を設定する。

- ・目標と評価の一体化がなされていたか。
- ・言語活動やグループ学習が課題解決の手立てとなっていたか。
- ・生徒一人一人の学習活動について。
- ・支援は有効だったか。

○授業観察シートを活用する。

○良かった点、改善を要する点を記入した付箋を活用する。

授業観察シート

授業観察シート

月 日 () 曜 年 組 教科 ()

() 先生 参観者 ()

段階	項目	内 容	チェック	○△
導入	①見通し	授業の見通しをもたせながら進めているか。		
	②課題の提示	学習課題の提示は適切にされているか。		
展開	③発問・指示	発問や指示のタイミングは効果的か。		
	④グループ学習	1. 「何を」「何のために」グループ学習するのか意識させたか。		
		2. 考えるための手立てをとったか。		
		3. 役割分担はできていたか。		
		4. グループに対する支援は効果的であったか。		
		5. 学び合いや話し合いは深められたか。		
		6. 時間は確保されたか。		
⑤思考整理	理解したことや考えたことを表現できたか。(伝える・ノート・ワークシート)			
⑥伝え合う	グループの考えの伝え合いを適切に行わせているか。(発表・報告)			
⑦評価	評価規準に基づいた評価方法や支援の手立ては適切か。			
終末	⑧振り返り	目標・学習内容を振り返らせたか(理解できたか)		

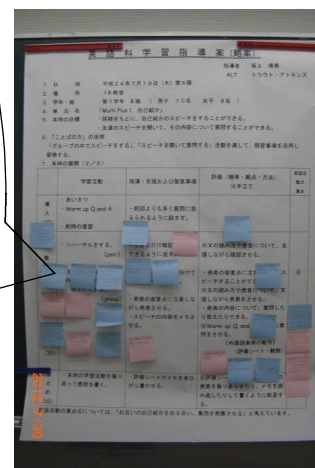
評価できる点

改善を要する点

協議用拡大指導案貼付用メ



研究協議の様子



授業者や参加者は、協議に上らなかった内容もこの付箋を参考にして、授業の改善に努める。

(9)「ことばの力」検証レポートの作成

教科における言語活動を充実させて、生徒の思考力・判断力・表現力を育成するために、また、個々の生徒の能力を教師間で共有し、成果・課題・手立てを今後の授業で生かすために、レポートにまとめて校内研修で交流した。

「ことばの力」検証レポート【2年国語科】

《2学年詩「明日」の学習活動の流れ》

- 1、詩の題名「明日」から連想するものをウェビング法でノートに書く。
- 2、詩の全体から伝わるイメージをつかむ。

〈生徒の反応〉

- ◇ “明日”を感じさせる表現を探す。
約束・予言・願い・夢・未知の力 など
↓
- ◇ 詩から伝わるイメージをつかむ
期待・将来の夢・道が開ける・前向きな生き方など

- 3、詩の特徴をつかむ。

〈生徒の反応〉

- ・第一連から四連までの1・2行目は同じリズム。
(反復法)
- 「ひとつの小さな・・・といい」
「明日を・・・」
- ・どの連にも“明日”という言葉が書かれている。
- ・第五連の“だが”で流れが変わった。
- ・第五・六連はまとめになっている。
- ・よく体言止めが使われている。
- ・“風のささやき”“明日はひそんでいる”といった表現（擬人法）

- 4、自分の気になる表現やよくわからない表現を押さえて、グループで解決に向かわせる。

- 5、グループで、2について自分で押さえた表現を出し合い、どう感じるか、また作者はどんなことを言いたいのか、意見を出し合う。
(※詩の全体のイメージから外れてはいけない。)

〈生徒の反応〉

- ・明日が楽しみで待ちどおしい様子が浮かんでくる。
- ・小さな願いや夢もかなえようとする努力が大切。
- ・新しい経験や出来事に期待している。
- ・何か目標を持って生きることは、自分のためになる。

- 6、5でとらえた事柄が、作品から伝わるイメージ(2でとらえた)を支える役割を果たしているかを考える。(※詩を支える役割が大きい。)

《中間テストでの課題》

詩「明日」の特徴や表現をおさえて、そこから感じたことを書きなさい。(※詩のイメージを大切にすること)

《評価の基準》

- A：詩の特徴や表現をおさえて、詩のイメージとつながる解釈を自分の言葉で表現している。
- B：特徴や表現をおさえて、詩のイメージとつながる解釈をしているが、表現が弱い。
- B-：詩のイメージとつながる解釈を自分の言葉で表現できていない。(詩の言葉になっている。)
- C：“自分が感じたこと”の答えになっていない。

【評価Aの生徒解答】

- まばゆい朝という所が隠喩的だと思う。そう感じるのは、やりたことや目標があって明日が輝いて見えるので、まばゆい朝という表現にしているのだと思う。
- 「いつまでも一つの幻」の部分で小さな願いや夢も叶えるためには努力していかなければいけないという意味を表している。

【評価Bの生徒解答】

- 「夜の間に支度する心のときめき」から、明日が楽しみで待ち遠しい様子が浮かんでくる。

【評価B-の生徒解答】

- 「くらやみから湧いてくる未知の力」が、まばゆい世界に広げてくれる。

【評価Cの生徒解答】

- 第五連以外は、“明日”に関することが書いている。
- 風はささやくことはできないのに、“風はささやく”と隠喩的な表現をして興味を引いている。

《成果と課題》

- ◆学習活動5のグループ学習の場面では、2でイメージをおさえたことと、3で詩の特徴や表現をおさえたことの二つの内容をつながりながら意見の交流ができていた。既習事項を生かして思考を深めることができたように思う。
- ◆出された課題について、自分の考えが持てなかった生徒に対しては、グループで出た意見を使って、もう一度、課題に対する答えを文章で書かせる必要があった。

(1 0) 校内授業研究の教科別リーフレットの作成

校内授業研究・研究協議で討議した生徒の学習定着度・授業改善点の内容を踏まえて、各教科で今後の授業技術を磨くために教科別のリーフレットを作成した。

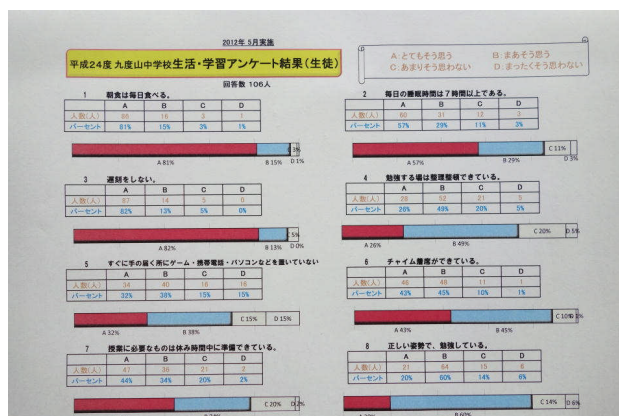
※リーフレットを添付する。

【2】基礎学力の定着と向上に向けて (1)「生活・学習アンケート」の実施

生活面・・・「朝食は食べる」「毎日の睡眠時間は7時間以上である」「遅刻をしない」など5項目。

学習規律・・・「チャイム入室・着席ができている」「授業に必要なものは休み時間に準備している」「正しい姿勢で勉強している」など7項目。

学習意欲・・・「自主勉ノートを毎日している」「話し合い（グループ学習）に積極的に参加している」など7項目。



集計結果を保護者に配布。

(2)「生活・学習アンケート」の結果から

①:生徒の実態把握 (特徴・弱い点・良好と思われる点など)

- ・朝食はきちんと摂れているし、遅刻もはない。(家庭の教育力の高さがうかがえる。)
- ・全体的に1年生は、生活面・学習規律・学習意欲が良好。(意識の高さがうかがえる。)
- ・「**2**:睡眠時間7時間以上」がほとんどだが、一部の生徒は夜遅くまで、メールのやり取りやネット遊びをしている。(生徒の聞き取り調査から。)
- ・「**5**:手の届くところにゲーム・携帯・パソコンを置いていない」では、【できていない(“あまりできていない”も含む)】が、3年30%、2年46%と高い。
- ・「**6**:チャイム着席ができている」では、割合が高いものの、授業の準備ができていない生徒が多いのと、2年は起立・礼のあと私語がはじまり授業開始に時間がかかる。
- ・「**9**:授業中、先生の話を中心して聞いている」では、【いない(“あまりしていない”も含む)】が2年43%と高い。
- ・「**11**:宿題をきちんとできている」では、【できていない(“あまりできていない”も含む)】が、2年46%、3年24%である。
- ・「**13**:自主勉ノートを毎日提出している(“ややできている”も含む)」は、3年22%、2年6%と低く、1年54%と高い。(塾の宿題に追われている生徒もいる。)
- ・「**16**:ノートの取り方を工夫している」の割合が多いが、教科ノートのチェックから判断すると、板書をそのまま写しているだけの生徒が多い。(生徒は“工夫”の意味を理解していないのでは?)
- ・「**17**:一つの答えに満足せずによりよい答えを見つけようとしている」では、【できていない(“あまりできていない”も含む)】が、3年40%、2年53%、1年42%である。(多くの生徒は与えられた課題について、自分の考えを持たずに答えをほしがる。)

②:①の実態から、重要視する点

《2、5、11、13の項目を中心に見て》

- ・学習環境を整える。
- ・宿題提出や家庭学習(自主勉ノートの取り組みも含めて)への取組。
- ・授業に集中して取り組めるようにする。

③学校として取り組める具体案など

ア：学校全体として

- ・学習環境を整える。

☆ゴミを放置しない。
 ☆プリント類をゴミにさせない指導をする。
 ☆机の中やロッカーの整理整頓。(必要のないものは置かない。)
 ☆マンガなどは持ち帰らせる。

イ：学年

- ・朝読書(1年)、朝プリント(2・3年)の取り組み。(落ち着いた状態で1日のスタートがきれるように。)
- ・自主勉ノートや宿題の提出の徹底。
- ・生徒のレベルに応じた宿題を課す。

ウ：教科

- ・授業のはじめに小テストをして、落ち着いた状態にさせる。
- ・ワークシートを活用して、授業の最後に回収し、チェックをする。
 (授業内に完成させる意欲を持たせるために。一人一人の思考過程が把握できるように。
 生徒の学習理解を深めるために。)
- ・発表シートの活用で、一人一人の意見をみんなで共有する機会を設ける。
- ・宿題未提出生徒は補習をしたり、放課後残って取り組ませる。

④家庭に協力を求める点など

- ・勉強の妨げになるものを身近に置かないようにしてもらう。(TV・携帯電話・パソコン・マンガなど)
- ・勉強の時は必ずテレビやパソコンを消すようにしてもらう。
- ・遅い時間帯まで、メールやネットをしていないかなどを把握してもらい、家庭でルール設定してもらう。

例：携帯電話を持たせる時間を設定する。(例18:00～20:00まで)
 :パソコン使用時間は30分以内。 など

- ・“学習の手引き”を、保護者にも配布して家庭で活用してもらう。
- ・テスト発表後の“テスト計画表”の保護者欄のチェックと、テスト終了後「ご家庭」からの欄に家庭学習の様子を記入してもらう。

アンケートの結果を受けて、保護者への協力をお願いする案内を配布。

九度山中学校
 日24、7月

「生活力」「学力」を高めるために

保護者の皆さんにおかれましては、平素より学校教育にご協力いただき、心より感謝申し上げます。
 さて本校では、生徒一人一人が充実した中学校生活を送るために、本年度は生徒の家庭を十分に把握して、学校と家庭とで連携しながら生徒の生活力・学力の向上に向けて取り組んでまいりたいと考えています。アンケート結果から、本校生徒を対象に5月に実施した「生活・学習アンケート」結果(別紙)をもとに、アンケート結果から数値目標で導き出した内容をふまえて「生活力」「学力」を高めるために、「家庭」をご協力いただき、ご家庭の取り組みの参考にいただければ幸いです。

【1】「生活・学習アンケート」結果から(重要視する点)

項目1:「朝食は毎日食べる。」、2:「毎日の睡眠時間は7時間以上である。」、3:「遅刻をしない」が最も多い。

ご家庭の生活習慣についての意識の高さがうかがえます。

項目5:「手の届くところにゲーム・携帯電話・パソコンを置いていない」では、学年によっては、「置いていない」と判断する割合が40%を超えていた。

項目9:「授業中、先生の話を集中して聞いている」では、全体では特になくなる数値ではないが、学年によっては【いない(「あまりしていない」も含む)】が40%を超えていた。

項目11:「宿題をきちんとできている」では、【できていない(「あまりできていない」も含む)】が、30%近い数値である。

項目13:「自主勉ノートを毎日提出している」では、【できていない(「あまりできていない」含む)】が、75%と非常に高い。

・学習環境を整えることが大切。
 ・宿題提出や家庭学習・自主学習(自主勉ノートも含めて)が重要。
 ・授業に集中するために。

【2】学校として取り組めること

(1)学校全体として

- ・校内授業時空を全職員が守り、より一層の授業力の向上を図る。
- ・進捗の放課後の補習(英・数)。
- ・学習環境を整える。

☆ゴミを放置しない。
 ☆プリント類をゴミにさせない指導をする。
 ☆机の中やロッカーの整理整頓。(必要のないものは置かない。)
 ☆マンガなどは持ち帰らせる。

(2)学年として

- ・落ち着いた状態で一日がスタートできるように、朝読書(1・2年)、朝プリント(2・3年)の取り組み。
- ・自主勉ノートや宿題の提出の徹底。(課題を課したり、放課後や休日に取り組ませる。)
- ・より努力を要する生徒にはレベルに応じた宿題を課す。

(3)教科として

- ・小テストや簡単なテストをして、落ち着いた状態にさせる。
- ・ワークシートや発表ボードの活用を通して、生徒一人一人が興味を持って意欲的に授業に参加できるようにする。
- ・宿題未提出生徒については補習をしたり、放課後残って取り組ませる。

【3】ご家庭に協力していただきたいこと

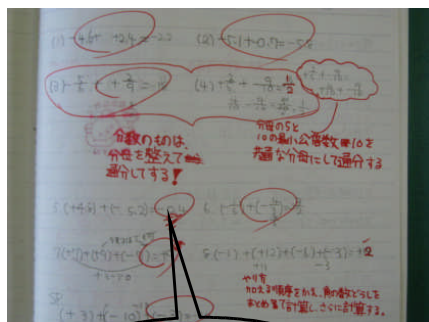
勉強の妨げになるものを身近に置かないようにお願いします。
 TV・携帯電話・パソコンを消すようにお願いします。
 遅い時間帯まで、メールやネットをしていないかなどを把握してもらい、家庭でルール設定してもらうようにお願いします。

例：携帯電話を持たせる時間を設定する。(例18:00～20:00まで)
 例：パソコン使用時間は30分以内。 など

4月に配布した“学習の手引き”をもう一度家庭でお読みください。また、テスト終了後、ご家庭からの欄に家庭学習の様子を記入していただければ幸いです。

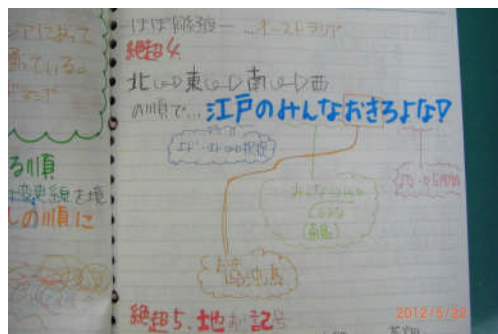
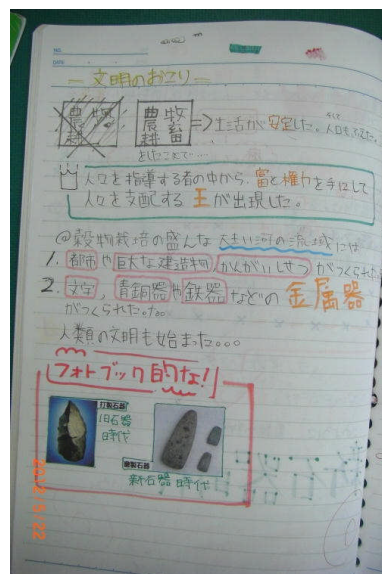
お忙しいとは思いますが、お子様の生活力・学力の向上のために少しでも協力いただければ幸いです。

生徒の家庭学習ノート（自主勉ノート）を紹介

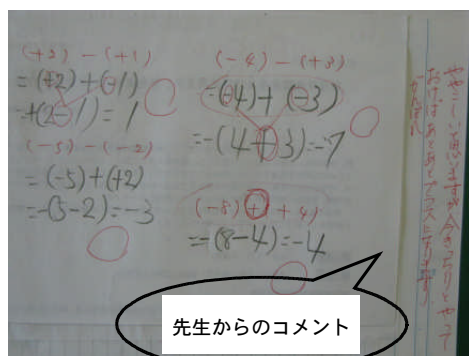
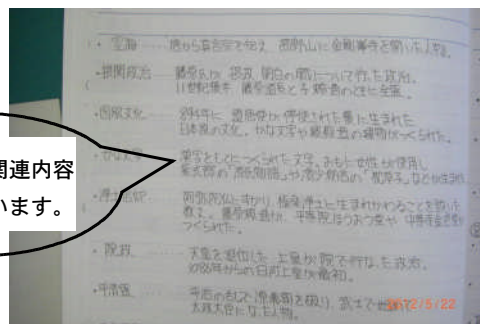


考え方を文章で書いています。GOOD!!

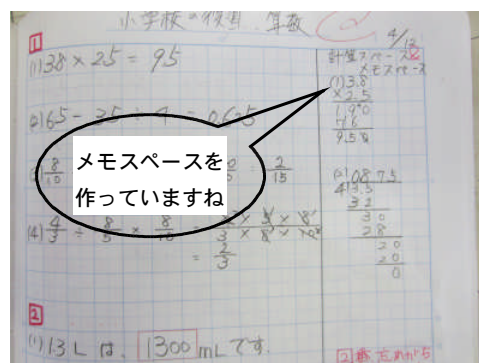
一年で15冊!!



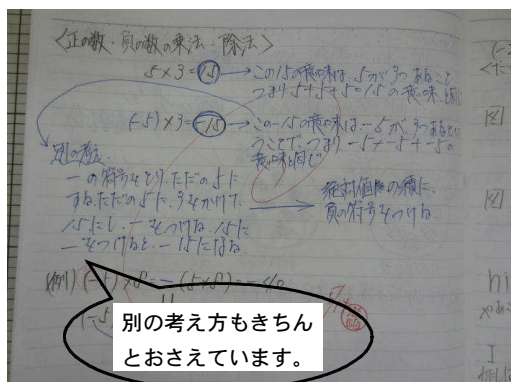
教科用語の関連内容をまとめています。



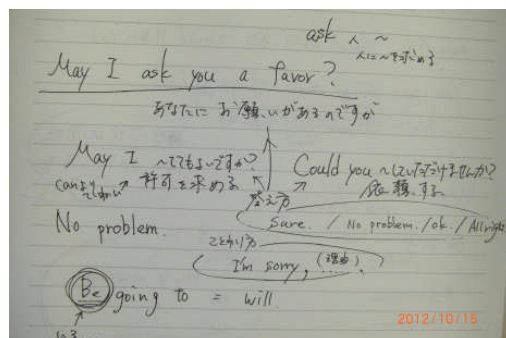
先生からのコメント



メモスペースを作っていますね



別の考え方もきちんとおさえています。



（４）補充学習への取組

【放課後自主勉強教室の取組について】

○目的：学習習慣定着の契機とし、基礎的な学力の向上を図る。

○対象： ３年生 （７名）

２年生 （７名）

１学期中間テスト＋授業の状況で決定

生徒には担任から連絡 保護者には学校から懇談で説明・通知

○方法：

場所 少人数教室 全学年同一教室で

学習内容 教科 数学 英語（交互に実施）

難易度を複数段階設けた自習プリント

数学は小学校算数科の内容から始める

実施日・時間帯 週１回月曜日 ５０分程度

数学科・英語科の教員を中心として主に各学年副担任が指導にあたる

学習ボランティア（本校卒業生）３名

机間巡視しながら質問を聞き、指導にあたる

自分自身で答え合わせをし、正答を書き込ませる

プリントを提出させ、担当教員が実施名簿に記入し生徒に返却 ファイルに保存させる

数学・・・小学校の計算 小数、分数の中から自分で問題を選択 （紀北教育支援事務所作成の問題）

中学校の計算 全員同じ問題でタイムを計る（速く正確に）

英語・・・１年生の内容 （be 動詞 一般動詞）

各学年の中間・期末テスト範囲の単語を書いて発音しておぼえる

基本の動詞（過去形 過去分詞）を書いて発音しておぼえる

【成果と課題】

- ・５限または６限授業にプラス５０分の学習なので、はじめは前向きに取り組めない生徒が多かったが（基礎学力不足、学習習慣未確立のため）落ち着いて学習する生徒も少しずつではあるが増え、希望して来る生徒も出てきた。
- ・指導する側の人数が足りない←大部分の生徒が１対１での指導を必要としている。
「わからないところを教えてほしい」と生徒は思っているが対応しきれない。
- ・基礎学力不足の生徒が自主的に学習できるような課題の作成が必要（英語）。
各学年の学習内容にリンクしたものであればなお良いのではないかな。
- ・学習ボランティアが来てくれたことは、生徒たちが外部の人に指導してもらう良い機会となった。

【3】学校ボランティアによる支援

【学習支援ボランティアによる支援】

本校の卒業生である大学生、大学院生が、本校の教師とともに「放課後自主勉強教室」の指導員をしてきている。

〔生徒の感想〕

- ・ 単語や計算がまあまあできるようになったと思う。(2年男子)
- ・ わかったときは、楽しいと思った。(2年女子)
- ・ 先生の教え方がうまくてよくわかった。自分で希望してきたけど自分のためになってよかったです。(2年 女子)
- ・ とてもわかりやすく教えてもらったし、楽しかった。(3年男子)
- ・ 英語や数学を教えてもらって、いっぱい単語とか覚えた。(3年男子)
- ・ 数学の計算がわかった。(3年男子)
- ・ 高校に受かるために自主勉強教室にきて、今まで多く勉強できてよかった。
(2年男子)
- ・ テストでわからなかったところがちょっとわかるようになった。(3年男子)

〔学習支援ボランティアから〕

今日も生徒さんの数に比べて先生の方数が多く、個別の指導が手厚くできていると感じました。

まずは、自分一人で解いてみて、わからないところは先生方や友人に聞いてみるのなら良いですが、1問ずつ答えを確かめるのは、自分の力にならないのでやめた方が良いと思います。

時間が限られているので仕方ないですが、どこでつまづいたのか考え直す時間がもっとあると良いと思いました。また、途中式を省略せずにきちんと書いてほしいと思いました。

週に1回という短い時間でも続けていくと成果がどこかで現れると思いますので、地道にがんばってください。



【図書ボランティアによる支援】

きのくに共育コミュニティ地域コーディネーターの呼びかけに応じ、図書ボランティアとして地域の方2名が毎週水曜日に来校し、学校図書室の蔵書の整理や図書室の整備等に取り組んでくれています。学校の言語環境を整える上での重要性を考え、平成24年度より導入しました。図書の貸し出しを進めて、読書習慣の定着を図るため、図書の展示の仕方にも工夫を凝らし、授業における調べ学習にも利用しています。



【総合的な学習の時間を活用した体験的な学習へのボランティアによる支援】

(1) 森林ボランティアによる「もりづくり教室」(1年生)

本校では、6年ほど前から「日本森林ボランティア協会」の方々による校内の樹木の伐採や剪定を行っていただいています。加えて、「講演会」や平成23年度より伐採した廃材を利用した「もりづくり教室」にも取り組んでいただき、生徒が「森の小径」と呼んでいる遊歩道やベンチの制作も行ってきました。



(2) 職場体験事前学習として「接客マナー教室」(2年生)

平成22年度より和歌山市内のホテル「アバローム紀の国」に支援をいただいて開催しています。本校では平成18年度より近隣市町の事業所の協力を得て2年生の「職場体験」に取り組んできました。この体験学習をより有意義で学習効果をあげるため、事前学習において接客する場面、事業所内での職務の遂行について「挨拶」、「話し方」、「電話の応対」等について指導をいただいています。



(3) 「高齢者体験・介護教室ボランティア」(3年生)

10年ほど前から九度山町社会福祉協議会との連携により「福祉講演会」を開催してきました。地域で障がいをもちながらも立派に社会貢献されている方や障がいをもった子どもの子育てに関わった体験をもたれた方、町内の手話サークルお招きして、体験や障がいに対する理解を深めるとともに関わり方を学び、手話による合唱などにも取り組んできました。

地域の高齢化や町内に老人保健施設があることも考え、平成23年度より「高齢者体験・介護教室」に取り組み、装具を身につけて高齢者の疑似体験を行った上で介護についての指導を社会福祉協議会の職員より受けています。



(4) 地域学習(1年生)におけるボランティア

平成20年度より学校での「ふるさと学習」にかえて、町内の社寺や文化財等についての理解を深めるためとともに、より郷土への愛着を培うために取り組んでいます。「慈尊院」、「丹生官省符神社」、「松山常次郎記念館」、「椎出厳島神社鬼の舞」、「旧萱野家」等の協力を得て、グループで現地を訪問して住職や宮司、館長をされている方々の案内で説明を受け、学んだことを校内において交流しています。



(5) 関係機関等の支援による「出前授業」

和歌山地方気象台、和歌山地方検察庁、税務署・税理士、九度山町栄養士等から専門職としての仕事の内容や取組、キャリア教育の面から仕事につくための知識等を中心に講義をいただいた。招聘した講師による自殺予防等のための「命の大切さを考える授業」、和歌山県警察本部のキッズサポートスクール「非行防止教室」、「手洗い教室」にも取り組んでいます。

また、九度山町人権尊重委員会との連携による人権講演会と共育ミニ集会にも取り組み地域の方々とともに人権学習を進めています。

